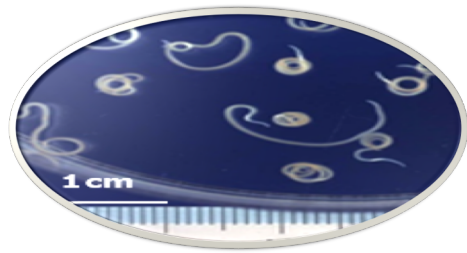


カツオにおけるアニサキスの調査

社会共創学部産業イノベーション学科
海洋生産科学コース三回生

背景

アニサキスによる食中毒では、アジやイワシ、カツオなどの回遊魚が原因になることもある。しかし、食品を用いた調査、とくにカツオを用いた研究は少なく、寄生率や寄生箇所などは明らかにされていない。そこで、実態把握のため、愛南漁業協同組合の協力のもと、寄生状況を調査した。



アニサキスとは？

アニサキスは寄生虫（線虫）の一種である。その幼虫（アニサキス幼虫）は、長さ2～3 cm、幅は0.5～1 mmくらいで、白色の少し太い糸のように見える。アニサキス幼虫は、寄生している魚介類が死亡し、時間が経過すると内臓から筋肉に移動することが知られている。

参照：アニサキスによる食中毒を予防しましょう - 厚生労働省
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000042953.html>

目的

カツオにおいてアニサキスが寄生する割合や部位などを調べることで、カツオによるアニサキス症の防止に役立つと同時に、地域イベントの運営のために、関係者へデータを提供することを目的とする。

実験方法

1、カツオの体長、尾叉長および体重を測定する。
2、解剖によって内臓と筋肉に分け、目視で寄生の有無を確認する。その際、寄生することが多い内臓の表皮部分を重点的に確認する。また、筋肉は、約1cm幅の切り身にして光に透かして確認する。

使用した実験道具は以下の通り

バット ピンセット 骨切バサミ 調理用包丁 シャーレ キムワイプ

実験結果

捕獲日当日に実験した検体をA～C 捕獲から1日経過したものをD～Hとする。

	体長(cm)	尾叉長(cm)	体重(g)	寄生の有無	寄生部位
A	45	44	1653	無	
B	46	43	1815	有	肝臓
C	48	45	1663	無	
D	48	45	1913	無	
E	51	48	2324	有	肝臓
F	44	42	1527	無	
G	48	45	1848	有	肝臓
H	47	44	1626	有	肝臓

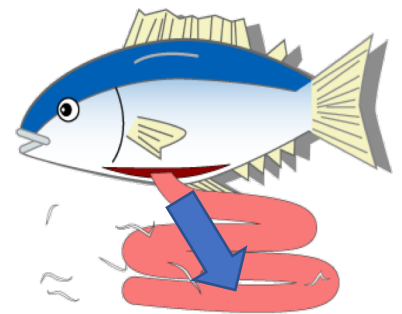


- ① 当日捕獲された検体3匹のうち1匹から検出された。
- ② 捕獲されて1日経過した検体5匹のうち3匹から検出された。
- ③ 検出箇所はすべて肝臓であった。
- ④ 体長や体重と寄生の有無に関係性は見られない。

考察

① サンプル数が少ないため一概には言えないものの、検体の半数からアニサキスが検出されたことから、寄生率は約50%であると思われる。これは高い数値であるため、早急に内臓処理の方法の確立などの対策を行うべきだと思われる。

② 検出された部位はすべて肝臓であることから、肝臓をはじめとした内臓を除去することでアニサキスへの感染はある程度予防できると思われる。また、大半が内臓表皮に寄生していたため、臓器を破らないように気をつけて除去することで、その予防性を高めることが可能だと思われる。



展望

今後は、サンプル数を増やし肝臓以外の臓器にも感染するかどうか調べる必要がある。また、アニサキスを死滅させ、かつ魚体にダメージを与えにくい保管方法や処理方法を検討していく必要もあるだろう。